

岩手県文化財調査報告書第56集

東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書

—Ⅶ—

(石鳥谷・花巻地区)

昭和 56 年 3 月

岩手県教育委員会
日本道路公団

東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書

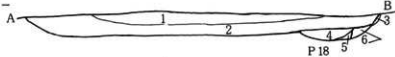
— VII —

(大地渡遺跡・野田遺跡・上台遺跡・南万丁目遺跡・古館遺跡)

東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 一VII一

(石鳥谷・花巻地区)

正 誤 表

ページ	行 其他	誤	正
10	第1図左側の遺跡名中	⑩ 南方丁目	⑩ 南万丁目
23	2	(浮線波状文あるいは撫糸文もつ)	(……撫糸文をもつ)
41	7	(P 3. 58 など)	(P 3. 5. 8 など)
42	1	それに連結する掘り行み……	……掘り込み
197	5	珪化木	珪化木
"	一覧表 No.13	半 蔵 品	半 蔵 品
208	23、28	?	11
221	註の5行目	松尾村野駄遺跡、寿木遺跡	……寄木遺跡
222	集成遺構一覧中	⑪ 一戸町字守	⑪ 一戸町子守
"	"	⑫ 軽米町居成田	⑫ 軽米町君成田
223	"	⑬ 盛岡市花内	⑬ 盛岡市暮内
"	"	⑭ 北上市鹿島館	⑭ 北上市鹿島館
"	"	⑮ 北上市禪山	⑮ 北上市禪山
225	24	(註)	(註 9)
226	註7一(15)	「孝島考古」	「福島考古」
245	7	(石鏃など)	(石鏃など)
247	16	所謂非定形定な	所謂非定形的な
258	3	背景について	背景について
"	7	その間の時間差なきわめて……	その間の時間差はきわめて……
321	24、28、30	} 橙 色	} 橙 色
323	22		
325	一覧表 No.17	下面回転糸切り	底下面回転糸切り
"	" No.25	黒色処理	黒色処理
"	" No.28~30	磨 滅	磨 滅
337	10	銅開弁	銅開弁
338	19	B区からは焼土遺構2基……	C区からは焼土遺構2基……
340	10、12	筧など調整	筧などで調整
351	1号建物跡実測図セクション A-B	土層ナンバー 欠落	
353	古銭計測表	No.4 天壽通宝	天壽通宝
"	"	No.9 燕寧元宝	燕寧元宝
"	"	No.13 開禧通宝	開禧通宝
354	柱穴計測表	上場径11×51	51×51
"	"	上・下場欄の銭形	円形
359	30	針葉樹等の樹林	……の樹木
369	炭化小麥計測表	登録No. 巾 cm	長さ cm

序

地域開発に伴う道路など交通網の整備事業は、社会の進歩発展からくる現代の必然的な要請であり、本県においても、そのための建設事業が多く計画・実施されております。

しかしながら、私達には祖先が長い歴史の中で創造し、伝えてきた貴重な文化遺産を保護するとともに、新たな文化創造の糧として活用していく責務があります。

国土開発計画に基づいて県内を南北に縦貫してつくられる東北自動車道は、産業経済開発の大動脈として多方面からの期待をになう国家的な大事業であり、一関・西根インター間が、すでに供用され、現在はさらに秋田・青森県境へと工事が進められております。

岩手県教育委員会は、この供用区間に関係した99遺跡について、日本道路公団仙台建設局の委託によって、昭和47年から昭和53年までの7年間にわたって発掘調査を実施し、その整理と報告書の作成を、昭和53年度から4か年計画で実施しております。

本報告書は、東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書の第七分冊として、花巻地区の「大地渡・野田・上台・南万丁目・古館」の5遺跡について、調査結果をとりまとめたものであります。このうち、大地渡遺跡は縄文時代中期の集落跡であり、集落のあり方や遺物の組成についての貴重な資料を得ており、また古館遺跡は、在地における中世城館の様子を知る上で、多くの手がかりを提示いたしております。

この報告書が、記録保存の成果として社会教育や学術研究の場で大きく役立つことを切に念願いたします。

ここに、調査について御援助・御協力をいただいた地元教育委員会はじめ関係各位に対し心から感謝申し上げます。

昭和56年3月

岩手県教育委員会

教育長 新里 盈

例 言

1. 本書は東北自動車道関係遺跡発掘調査報告書第Ⅶ分冊として、石鳥谷・花巻地区（石鳥谷町・花巻市）所在の5遺跡について作成したものである。調査は47年度から49年度に実施されたものである。

2. 遺跡の記載は北から順に行なった。

3. 調査および整理にあたって、次の方々と機関の指導・教示を得た（敬称略。順不同）

田中喜多美（県文化財保護審議員）	進藤 秋輝（宮城県多賀城跡調査研究所）
板橋 源（同上）	白鳥 良一（同上）
草間 俊一（同上・岩手大学）	加藤 道夫（宮城県文化財保護課）
伊東 信雄（東北学院大学）	丹羽 茂（同上）
芹沢 長介（東北大学）	小井川和夫（同上）
林 謙作（北海道大学）	渡辺泰伸（仙台育英学園高等学校）
工藤 雅樹（宮城学院大学）	小野寺信吾（岩手県立大東高等学校）
須藤 隆（東北大学）	山本 賢三（花巻市）
桑原 滋郎（宮城県多賀城跡調査研究所）	沼山源喜治（北上市史編さん室）
藤沼 邦彦（東北歴史資料館）	清水 芳裕（京都大学）
高橋 信雄（岩手県立博物館）	二戸市教育委員会 花巻市教育委員会
伊藤 鉄夫（水沢市）	一戸町教育委員会 石鳥谷町教育委員会
伊藤 陽夫（"）	北上市教育委員会
伊藤 博幸（水沢市教育委員会）	北上市立博物館
高橋与右衛門助岩手県埋蔵文化財センター	江刺市教育委員会
三浦 謙一（"）	胆沢町教育委員会
四井 謙吉（"）	江釣子村教育委員会
小平 忠孝（"）	岩手県立博物館
吉田 洋（"）	宮城県文化財保護課
鈴木 恵治（"）	東北歴史資料館
工藤 利幸（"）	東北大学文学部考古学研究室
種市 進（"）	秋田県弘田柵跡調査事務所
関 豊（二戸市教育委員会）	福島県教育委員会文化課
高田 和徳（一戸町教育委員会）	仙台市教育委員会
高橋 文明（江釣子村教育委員会）	福島県文化センター

吉田 義昭（盛岡市教育委員会）

財団法人岩手県埋蔵文化財センター

八木 光則（盛岡市教育委員会）

4. 資料の分析・同定は、次の方々・機関に依頼した（敬称略・順不同）

石材・産出地同定・地形区分、佐藤二郎（岩手県立大船渡農業高等学校）

獣骨同定 見上晋一 兼松重任（岩手大学農学部獣医学科）

樹種 # 吉田栄一（岩手大学農学部林学科）

種実 # 村井三郎（岩手県文化財審議委員）

土器胎土分析 照井一明（岩手県立種市高等学校）

炭化材樹種同定 早坂松次郎（岩手県木炭協会）

年代測定 日本アイソトープ協会

土器胎土分析（蛍光X線分析） 岩手県工業試験場

5. 本書に用いた地形図は、建設省国土地理院発行の5万分の1地形図、20万分の1地勢図である。

6. グリッド配置図は、日本道路公団作成による「TOHOKU EXPRESS WAY PLAN」を用い、遺跡・遺構等の方位表示は同図の第10系座標系の北方向である。

7. 遺跡における層相と土器の色調観察は、小山、竹原編著「新版 標準土色帖」日本色研事業㈱を用いた。

8. 遺物、写真、実測図等は、岩手県教育委員会事務局文化課において保管している。

9. 調査主体 岩手県教育委員会 日本道路公団

10. 調査担当者 岩手県教育委員会事務局文化課

11. 発掘調査・整理・執筆担当

序文1. 経 過 吉田 努

2. 調査方法 #

3. 整理方法 相原康二

地区概観 #

遺跡名	調 査 担 当 者	整理・執筆担当
大地渡	瀬川司男、勝股国夫、相原康二、三浦謙一、小野寺たみよ、大和泉芳子	相原康二
野 田	山口興典、三上昭、中川重紀	三上昭
上 台	瀬川司男、長谷川賢	三上昭
南万丁目	斉藤 淳、四井謙吉	菊地郁雄
古 館	山口興典、菊地郁雄、佐々木勝、三上昭、嶋千秋、朴沢正耕、藤井敬明	三上昭

目 次

序 文

1. 調査にいたる経過他	1
2. 調査の方法	2
3. 整理の方法	3

本 文

地区概観 1. 地形概観	14
2. 遺跡分布	16

大 地 渡 遺 跡

I. 遺跡の位置と立地	22	Ee65住居跡	90
II. 周辺の歴史的環境	22	Ee68住居跡	95
III. 層序と土質	25	Ef68遺構	107
IV. 発見された遺構と遺物	25	Ei68遺構	108
1. 縄文時代	25	B 遺物	110
A 遺構	25	(1) 土器	110
Ce62遺構	25	(2) 石器	169
Ch56住居跡	32	(3) 土製品	208
Ci68住居跡	37	(4) 石製品	210
Db59住居跡	41	C 要約	212
De03遺構	46	(a) 土器の編年上の位置	224
De06遺構	47	(b) 遺構における土器群の組み合わせ	227
De03遺構	51	(c) 土器に関するその他の観察事項	228
Df09住居跡	53	(a) 成形技法	228
Df53住居跡	61	(b) 地 文	228
Ee62住居跡	64	(c) 縄文原体	228
Ed62住居跡	78		
Ed65住居跡	85		

(エ) 原体回転方向	228
(オ) 装飾技法	230
(カ) 施文モチーフ	233
(キ) 胎土・焼成	244
(d) 石器	244
(イ) 器種・組成	244
(イ) 器種・組成の類例	247
(イ) 使用石材	249
(エ) 石材産出地	252
2. 平安時代	253
A 遺構と遺物	253
Cf65住居跡	253
De50住居跡	258
B 要約	262
(1) 遺構	262
(2) 遺物	266

3. 時代不明の遺構	270
Cg71溝状遺跡	270
Ch62遺構・Ci62溝状遺構	270
Cj56遺構	271
Cj50遺構	272
Dh59遺構(新・旧)	273
Dh50・53遺構	275
Dj56遺構	277
4. 分析・鑑定結果	278
A 植物遺存体	278
B 炭化材樹種	278
C 放射性炭素による年代測定	280
D 岩石学的方法による胎土分析	280
E 蛍光X線分析法による胎土分析	310
5. 結語	312

図 版 目 次

第1図 遺跡周辺の地形及びグリッド配置図	20
第2図 地形断面模式図	23
第3図 層序模式図	26
第4図 遺構配置図	28
第5図 Ce62遺構実測図	30
第6図 Ce62遺構出土石器拓影図	31
第7図 Ce62遺構出土石器実測図	32
第8図 Ch56住居跡実測図	33
第9図 Ch56住居跡出土石器実測図(1)	34
第10図 Ch56住居跡出土石器実測図(2)	35
第11図 Ch56住居跡出土石器・土製品実測図	

第12図 Ci68住居跡実測図	36
第13図 Ci68住居跡出土石器実測図(1)	39
第14図 Ci68住居跡出土石器実測図(2)	40
第15図 Ci68出土石器・土製品実測図	41
第16図 Db59住居跡実測図	42
第17図 Db59住居跡出土石器実測図(1)	43
第18図 Db59住居跡出土石器実測図(2)	44
第19図 Db59住居跡出土石器実測図	45
第20図 Dc03遺構実測図	47
第21図 De03・06遺構実測図	48
第22図 De06遺構出土石器実測図	49

第23図	De06遺構出土石器実測図	50	第55図	Ed65住居跡出土石器実測図(1)	87
第24図	De03遺構出土石器実測図	51	第56図	Ed65住居跡出土石器実測図(2)	88
第25図	De03遺構出土石器実測図	52	第57図	Ed65住居跡出土石器実測図(3)	89
第26図	Df09住居跡実測図	54	第58図	Ed65住居跡出土石器実測図	89
第27図	Bf09住居跡出土石器実測図(1)	55	第59図	Ee65住居跡実測図	90
第28図	Df09住居跡出土石器実測図(2)	56	第60図	Ee65住居跡出土石器実測図(1)	91
第29図	Df09住居跡出土石器実測図(3)	58	第61図	Ee65住居跡出土石器拓影図	92
第30図	Df09住居跡出土石器実測図(4)	59	第62図	Ee65住居跡出土石器実測図	93
第31図	Df09住居跡出土石器実測図(5)	60	第63図	Ee68住居跡実測図	96
第32図	Df09住居跡出土石器実測図	60	第64図	Ee68住居跡出土石器実測図(1)	97
第33図	Df53住居跡実測図	61	第65図	Ee68住居跡出土石器実測図(2)	98
第34図	Df53住居跡出土石器拓影図	62	第66図	Ee68住居跡出土石器実測図(3)	99
第35図	Df53住居跡出土石器実測図	63	第67図	Ee68住居跡出土石器実測図(4)	100
第36図	Ec62住居跡実測図	65	第68図	Ee68住居跡出土石器実測図(5)	101
第37図	Ec62住居跡出土石器拓影図(1)	67	第69図	Ee68住居跡出土石器実測図(6)	102
第38図	Ec62住居跡出土石器拓影図(2)	68	第70図	Ee68住居跡出土石器実測図(7)	103
第39図	Ec62住居跡出土石器実測図(3)	69	第71図	Ee68住居跡出土石器実測図(1)	104
第40図	Ec62住居跡出土石器実測図(4)	70	第72図	Ee68住居跡出土石器実測図(2)	105
第41図	Ec62住居跡出土石器実測図(1)	70	第73図	Ef68遺構実測図	108
第42図	Ec62住居跡出土石器実測図(2)	71	第74図	Ei68遺構実測図	109
第43図	Ec62住居跡出土石器実測図(3)	72	第75図	土器分類基準表(1)	112
第44図	Ec62住居跡出土石器実測図(4)	73	第76図	土器分類基準表(2)	114
第45図	Ec62住居跡出土石器実測図(5)	74	第77図	早期と思われる土器拓影図	119
第46図	Ec62住居跡出土石器実測図(6)	75	第78図	Bブロック出土石器拓影・実測図	120
第47図	Ec62住居跡出土土製品実測図	76			
第48図	Ed62住居跡実測図	79	第79図	Cブロック(西半部)	121
第49図	Ed62住居跡出土石器拓影図(1)	80	第80図	"(東半部)"	(1) 122
第50図	Ed62住居跡出土石器拓影図(2)	81	第81図	"	(2) 123
第51図	Ed62住居跡出土石器実測図(1)	82	第82図	"	(3) 124
第52図	Ed62住居跡出土石器実測図(2)	83	第83図	"	(4) 125
第53図	Ed62住居跡出土土製品実測図	84	第84図	"	(5) 126
第54図	Ed65住居跡実測図	85	第85図	"	(6) 127

第86図	Cブロック(東半部)出土土器拓影・ 実測図	(7)···128	第117図	Dブロック(南半部)出土土器拓影図 ・実測図(12)··········	157
第87図	"	" (8)···129	第118図	Eブロック(東半部) "	158
第88図	Dブロック(北半部) "	(1)···130	第119図	Eブロック(西半部) "	(1)···158
第89図	"	" (2)···131	第120図	"	" (2)···159
第90図	"	" (3)···132	第121図	"	" (3)···160
第91図	"	" (4)···133	第122図	"	" (4)···161
第92図	"	" (5)···133	第123図	"	" (5)···162
第93図	"	" (6)···134	第124図	"	" (6)···163
第94図	"	" (7)···135	第125図	"	" (7)···164
第95図	"	" (8)···136	第126図	"	" (8)···165
第96図	"	" (9)···137	第127図	"	" (9)···166
第97図	"	" (10)···138	第128図	"	" (10)···167
第98図	"	" (11)···139	第129図	"	" (11)···168
第99図	"	" (12)···140	第130図	第3類石器実測図········	174
第100図	"	" (13)···141	第131図	第4類 "	·········176
第101図	"	" (14)···142	第132図	第5類 "	·········178
第102図	"	" (15)···143	第133図	第6類 "	·········179
第103図	"	" (16)···144	第134図	第7類 "	·········181
第104図	"	" (17)···145	第135図	第8類 "	·········182
第105図	"	" (18)···146	第136図	第9類 "	·········185
第106図	Dブロック(南半部) "	(1)···147	第137図	第10類 "	·········188
第107図	"	" (2)···148	第138図	第11・12類 "	·········194
第108図	"	" (3)···148	第139図	第13・14類 "	·········195
第109図	"	" (4)···149	第140図	第15類 "	·········196
第110図	"	" (5)···150	第141図	第16類 "	·········196
第111図	"	" (6)···151	第142図	第18類 "	·········198
第112図	"	" (7)···152	第143図	第20類石器度数分布····	201
第113図	"	" (8)···153	第144図	第22類石器実測図····	205
第114図	"	" (9)···154	第145図	第23類 "	·········206
第115図	"	" (10)···155	第146図	第24類 "	·········207
第116図	"	" (11)···156	第147図	土製品類実測図····	209

第148図	石製品類実測図	211
第149図	竪穴住居跡等配置模式図	213
第150図	＃ プラン集成図	214
第151図	炉跡プラン集成図	216
第152図	岩手県内縄文・弥生時代竪穴住居跡集成図	別紙
第153図	成形の痕跡を示す資料 (1)	229
第154図	＃ (2)	230
第155図	装飾方法を示す例	231
第156図	底部成形例	232
第157図	施文モチーフ集成図 (1)	236
第158図	＃ (2)	238
第159図	＃ (3)	240
第160図	＃ (4)	242
第161図	石器組成の類例	別紙
第162図	Cf65住居跡実測図	254
第163図	Cf65住居跡出土土器実測・拓影図	254
第164図	Cf65住居跡出土土器実測図	258
第165図	De50住居跡実測図	259
第166図	De住居跡出土土器実測・拓影図	260
第167図	De住居跡出土土器実測図	261
第168図	岩手県における古代住居集成	264
第169図	岩手県南部を中心とする古代土器編年試案	別紙
第170図	Cg71溝状遺構出土土器拓影図	270
第171図	Ch62・Ci62遺構実測図	271
第172図	Ch62遺構出土土器実測図	271
第173図	Cj56遺構実測図	272
第174図	Cj50遺構実測図	273

第175図	Cj50出土土器拓影図	273
第176図	Dh59遺構(新・旧)実測図	274
第177図	Dh59出土土器拓影図	275
第178図	Dh50・53遺構実測図	276
第179図	Dh50・53出土土器拓影図	277
第180図	Dj56遺構実測図	277
第181図	胎土分析試料 (1)	284
第182図	胎土分析試料 (2)	285
第183図	Plate 1	286
第184図	＃ 2	287
第185図	＃ 3	288
第186図	＃ 4	289
第187図	＃ 5	290
第188図	＃ 6	291
第189図	＃ 7	292
第190図	＃ 8	293
第191図	＃ 9	294
第192図	＃ 10	295
第193図	＃ 11	296
第194図	＃ 12	297
第195図	＃ 13	298
第196図	＃ 14	299
第197図	＃ 15	300
第198図	＃ 16	301
第199図	＃ 17	302
第200図	＃ 18	303
第201図	＃ 19	304
第202図	＃ 20	305

写真図版目次

図版1	遺跡遠景……………	366	図版17	Cf65住居跡・De50住居跡……………	382
図版2	Ce62遺構・Ch56遺構……………	367	図版18	Ch62・Cj50・Dh50・53・59遺構……………	383
図版3	Ci68住居跡……………	368	図版19	遺物出土状況……………	384
図版4	Db59住居跡・De03遺構……………	369	図版20	B・C・Dブロック出土土器類……………	385
図版5	De03・De06遺構……………	370	図版21	Dブロック出土土器類(2)……………	386
図版6	Df09住居跡(1)……………	371	図版22	Dブロック出土土器類(3)……………	387
図版7	Df09住居跡(2)・Ef68遺構……………	372	図版23	D・Eブロック出土土器類……………	388
図版8	Df53住居跡・Ed62住居跡(2)……………	373	図版24	EブロックⅦ群・その他の土器群……………	389
図版9	Ec62住居跡(1)……………	374	図版25	黒曜岩・石器3類(鐵)……………	390
図版10	Ec62住居跡(2)……………	375	図版26	石器4・5・6・7・8・11類……………	391
図版11	Ed62住居跡(1)……………	376	図版27	石器9・10・12・16類……………	392
図版12	Ed65住居跡……………	377	図版28	石器15・18・19・20・21類……………	393
図版13	Ee65住居跡……………	378	図版29	石器13・14・22・23類、土製品・装飾品類……………	394
図版14	Ee68住居跡(1)……………	379	図版30	斧状・三角形・不明土製品、炭化種実、銭貨……………	395
図版15	Ee68住居跡(2)……………	380			
図版16	Ee68住居跡(3)・Ei68遺構……………	381			

付 表 一 覧

第1表	周辺の遺跡地名表……………	24	第6表	石材ならびに産出地一覧……………	250
第2表	遺構出土土器の組みあわせ一覧……………	227	第7表	胎土分析試料一覧……………	281
第3表	石器組成一覧……………	245	第8表	試料分析結果……………	306
第4表	石器組成集積グラフ……………	246	第9表	蛍光X線分析結果……………	310
第5表	石器組成類例集積グラフ……………	248			

野 田 遺 跡

I	遺跡の位置と立地……………	316	図版	地形・グリッド配置図……………	316
II	調査の経過と結果……………	317			

上台遺跡

I 遺跡の位置と立地	320
II 調査の方法と経過	321
III 発見された遺構と遺物	321
(1) 焼土遺構 A	321
(2) 焼土遺構 B	323
図版目次	
第1図 地形・調査範囲	320
第2図 遺構図	322
第3図 出土遺物	324

(3) 東側落ち込み	323
(4) 落ち込み I	323
(5) その他	326
IV まとめ	326

付表目次

遺物一覧表	325
写真図版目次	
図版1	398

南万丁目遺跡

I 遺構の位置と立地	331
II 検出された遺構と遺物	331
図版目次	
第1図 遺跡周辺の地形及びグリッド配置図	330
第2図 円形周溝	332

III まとめ	331
---------	-----

写真図版目次

図版1 遺跡全景・出土遺物	402
図版2 出土遺物	403

古館遺跡

I 遺跡の位置と立地	337
II 調査の経過	337
III 層序と土質	338
IV 発見された遺構と遺物	338
1. 焼土遺構	338
(1) Cm03焼土遺構	338
(2) Da50焼土遺構	340
2. 表土等より発見した遺物	340

3. 柱穴群	349
4. 半地下式建物跡	349
(1) 1号建物跡	349
(2) 2号建物跡	353
(3) 3号建物跡	354
(4) 4号建物跡	357
5. 土塁	359
V まとめ	363

写真図版目次

第1図 地形図	336	第7図 1号建物跡	351
第2図 土層断面図	337	第8図 出土古銭	352
第3図 グリッド・遺構配置図	339	第9図 2号建物跡	355
第4図 出土遺物Ⅰ	341	第10図 3号建物跡	356
第5図 出土遺物Ⅱ	342	第11図 4号建物跡	358
第6図 掘立柱建物跡	350	第12図 各建物跡柱間長さ	358

付表目次

遺物集計表		1号建物説明	349
襖形土器①	343	古銭計測表	353
襖形土器①・②・③	344	2号建物説明	354
襖形土器③	345	3号建物説明	357
襖形土器③	346	4号建物説明	357
襖形土器③・環形①	347	炭化米計測表	360
環形②	348		

写真図版目次

図版1 遺跡全景他	406	図版7 表土等出土遺物Ⅲ	412
図版2 焼土遺構	407	図版8 古銭・鉄釘	413
図版3 掘立柱建物跡	408	図版9 炭化穀粒	414
図版4 遺物出土状況	409	図版10 炭化種子	415
図版5 表土等出土遺物Ⅰ	410	職員一覧	416
図版6 表土等出土遺物Ⅱ	411		

序 文

1. 調査にいたる経過

県内の東北縦貫自動車道建設は、昭和40年11月仙台・盛岡間の基本計画の決定に始まり、昭和43年4月の施行命令によって具体化される。

これによって破壊される埋蔵文化財の取扱いについては、文化庁と日本道路公団の覚書により、岩手県教育委員会がおこなうことになった。

まず、一関・盛岡間の路線予定地内の分布調査が、昭和42年及び43年に実施され、昭和45年2月19日水沢・花巻間40km、同年11月25日一関・胆沢間30km、46年2月10日石鳥谷・盛岡間29kmの路線発表がなされたことに伴い、昭和47年8月～9月に、用地巾50mで現地確認調査、同年10月インターチェンジ及び付帯施設予定地内の現地確認調査等が順次実施され、一関・盛岡間の調査対象遺跡は当初82ヶ所確認された。

これらの破壊される遺跡について、できるだけわしく調査・記録し、遺跡のもつ歴史的価値を永く後世に伝えることを目的とし、昭和47年度に北上市・花巻市・金ヶ崎町所在の遺跡から調査が開始され、用地買収、着工順位に従って順次すすめられた。

この間、調査除外としたもの4ヶ所がある。一関市菊又遺跡は過去の開田による破壊の程度が大きく煙滅、一関市松の木遺跡は宅地化による破壊、衣川村樹形陣場跡は所在位置が路線からはずれる、衣川村二枚貝化石層は遺跡としての調査対象としないなどの理由による。

また、路線変更によって保存されたのが、平泉町伝護摩堂跡である。この遺跡は奥州平泉文化との関連が考えられ、路線発表後に路線内に所在することが確認され、急速日本道路公団と協議し、路線を西側に変更した。一方、工事直前もしくは工事中に新しく確認追加されたものに、土取場の和賀町梅ノ木Ⅰ～Ⅶ遺跡、路線内では衣川村東裏遺跡、江釣子村下谷地B遺跡、紫波町墳館遺跡および柳田館遺跡がある。

昭和49年6月20日、盛岡・安代間53kmの路線発表があり、この区間のうち、盛岡・西根（松川まで）間が調査対象の日程にくりこまれ、当初、8遺跡が確認されたが、工事中に滝沢村叩遠坂遺跡が発見追加され、更に紫波インターチェンジの誘致新設に関連し、栗田Ⅰ～Ⅲ遺跡が調査対象となる。

以上のように、一関・西根（松川まで）区間の調査対象遺跡数は、除外、新規発見などによる変動を見て来た。このことは、埋蔵文化財保護の基本の一つとして、分布調査の重要性が改めて問われる一面でもある。結局、調査遺跡数は、99遺跡、18市町村におよぶものとなった。

調査をすすめる一方、文化庁、日本道路公団との協議によって、前述の伝護摩堂跡を完全保存したのをはじめ、江釣子村鳩岡崎遺跡の縄文中期の大型穴住居跡の一部、水沢市石田遺跡では、奈良時代末から平安時代初期に相当する焼失家屋1棟、紫波町上平沢新田遺跡では、平安時代相当の焼失家屋1棟の路線境検出遺構を一部精査の上、それぞれ埋めどし現地保存をした。

また、江釣子村猫谷地遺跡の古墳1基、紫波町墳館遺跡の墳基1基、柳田館遺跡・盛岡市太田方八丁遺跡の一部は、施工方法や設計変更等によって可能な限りの保存策をとった。

しかし、これらの保存遺構や遺跡の管理、活用は今後十分に留意しなければならないものであり、それがなされなければ完全な保存策であったとは言い得ない。

昭和47年度に始まった調査は、昭和53年度の紫波町栗田田遺跡を最後に終り、現在、整理作業をすすめているが、東北縦貫自動車道建設の具体化以来、事業をすすめるに当たって、終始指導と助言をくださった県内外の協力者、および献身的な協力を得た関係市町村教育委員会、学校、関係諸機関、地元作業員の方々をはじめ各位に改めて敬意を表したい。

なお、西根町以北の東北縦貫自動車道関連遺跡は、駒岩手県埋蔵文化財センターによって調査されることになり、昭和53年度から実施されている。

2. 調査の方法

(1) 調査対象範囲の選定は、遺跡の中で用地内および付帯施設を含む関連部分は、すべて調査対象とした。更に、当該遺跡周辺の分布調査を可能な限り実施することにつとめ、調査地とそれととりまく遺跡群との関連解釈の一助に資することとした。

(2) 調査対象全域に次のような地区設定をした。

①地区設定のための原点は、日本道路公団測量の路線内中心杭の任意のものに定め、それと他の中心杭の2点間を見通す直線と、原点を通りこれに直交する直線を座標の基準線とした。

②南北の基準線をもとに、30mを1ブロックとし、北から順にA・B…の記号を付し、これを東西、南北に10等分し3m×3mのグリッドを設定、グリッド名は北から順にa-j、南北基準線から東方へ50・53・56……。西方へ03・06・09……。の記号を付し、これとブロック記号の組合せで表わした。例えば、A a 03・A a 50のようになる。

(3) 発掘および記録について 発掘調査は絶対にくりかえしの出来ない作業である。特に、緊急調査と言う性格と記録保存を考えると、調査の過程で観察された事項は可能な限り詳細に、しかもすべて客観的データとして記録されねばならないし、記録者の解釈と観察された事実とが混同されぬよう留意しながら①遺構群をひとつのまとまりとして把握すること、文化層が重なっている場合、層序とともにそれぞれの文化層のひろがりを実に把握すること、更

に緊急調査の場合、事後の保存が困難である以上、トレンチによる部分発掘は回避すべきであることからグリッド設定にもとづく平面発掘につとめた。

- ②原則として3m×3mのグリッドで、調査地における遺物・遺構の分布状況を把握するため、「ちどり」状に人力による掘削をすることにしたが、結果的に機械力の導入も多かった。遺物・遺構の検出を見た場合、その具体的内容を究明するため必要な範囲の全面発掘を実施した。
- ③遺構が検出された場合、該当グリッド名を付した。その場合もっとも北西に位置するグリッド名で呼称することを原則とした。精査に当っては、2分法・4分法による平面発掘を留意し、遺構の性格と内部堆積状況・構造・重複等を把握しながら完掘することとした。
- ④遺物は、原則としてグリッドごとに取り上げ、遺跡記号・出土年月日・出土地点・出土層位を記録し、遺構に直接関係するものや、年代決定の資料となり得るものについては出土レベル、位置を平面図に記録し遺物番号を付して取り上げた。
- ⑤遺物の出土状況・層位・遺構に関する所見等の記録は実測図・遺構カード・フィールドノートを用い、全体の問題点、進行は調査日誌に記録した。
- ⑥写真記録は35mm版モノクロ、カラー・6×7cm版モノクロを主として用いた。

(4) 実測方法 ①発掘された遺構の実測は、原則として遣り方実測を用い、平版実測は補助にとどめた。②原図の縮尺は1/20に統一したが、遺構・遺物の細部については、必要に応じて1/10縮尺を採用した。

(5) 関連科学との連携について 総合的な見地からの記録作業という意味で、考古学のみならず関連科学の研究者、とくに自然科学系統の分野との連携に留意し、調査現場の実見と見解を求めることにつとめた。

(6) (記録保存前提の事前調査か否かを問わず、この種発掘調査には不可欠と思われ、特にとりあげる必要もないと思われるが、あえてふれると)普及・広報活動として、現地説明会(調査途中・終了段階の複数回)・調査ニュース・学習会などを、それぞれ実施・発行した。さらに地元教委との共催で文化財講演会を実施した例もある。

3. 整理の方法

整理にあたっては調査の性格(「緊急調査」と「記録保存」)を十分に考慮した。したがって可なり詳細な記録を作成することと、その公開を主目的とした。なおいわゆる「行政調査(とくに緊急調査)」と「学術調査」の異同を、その「現場」に投入された技術、方法の次元に還元して論ずるのは妥当ではない。「緊急調査」の「現場・調査」の位置づけについては本課にも若干の反省点がある。

- (1) いわゆる「珍品主義」・「一番主義」を排し、得た資料のすべてを観察し、それぞれに

応じた記録を作成することを旨とした。各調査地（遺跡）・調査資料の正当な評価の資料を提示するためであるし、それが「記録保存」の趣旨にも連なるからである。その結果として記述が若干煩雑になった。ただし実際上は、調査担当者の設定仮説が整理担当者に十分に伝わっていないなどのことも目立ち、満足のいく整理を必ずしもなしえなかった調査地もまた多い。遺憾である。また本書に提示した諸仮説、見解は本課の統一見解ではなく、整理担当者のそれである。具体的には ①観察事項の正確な伝達 ②仮説の提示とその展開、吟味 ③新規の仮説問題点の提起 ④新しい資料操作法の提示などを旨としたが、前述のように必ずしも十分には実施できなかった。

(2) 調査地はそれのみ単独での評価は避け、一定の地域内とりわけ他の遺跡との関係を重視して解釈・評価するように努めた。「周辺の遺跡」の項がやや煩雑にわたっているのはその為である。これは(1)の実践をめざすのみならず「遺構存在を遺跡成立の絶対条件視する見解。への反論のためにも必要であり、とりわけ埋蔵文化財保護にはきわめて重要な観点である。

(3) 調査時と同様に「関連諸科学・諸技術との連携」に留意した。(1)でのべた目的を満足させる為に必要不可欠であり、さらにはその保存処理・各種データの蓄積・その公開も本課に課せられた責務だからである。今後の継続実施を考慮し、可能なものは努めて本県内の機関・公所・その他に連携ないし委託先を求めた。具体的実施例は、年代測定（カーボンディATING・熱ルミネッセンス法他）・材質同定（石材他）・樹種同定（木器・木材・柱脚他）・種実同定（炭化米・雑穀類・雑草類他）・花粉分析・人骨（歯）鑑定・獣骨（家畜を含む）同定・組成分析（釉薬・土器胎土・火山灰他）・燻分析・地質学的諸分析等にわたるが、今後も新分野を加える必要がある。保存処理は木器・木材・柱脚類・鉄器類を中心に実施しているが、これも今後さらに新分野のものについて実施する必要がある。地質学的知見・教示は(2)などとの関連で、調査地および周辺の遺跡の立地・占地に関して、また遺物と出土層（とくに火山灰層）との関連に留意して援用した。大規模調査地については航空写真・ステレオカメラにもとづく作図を採用した。

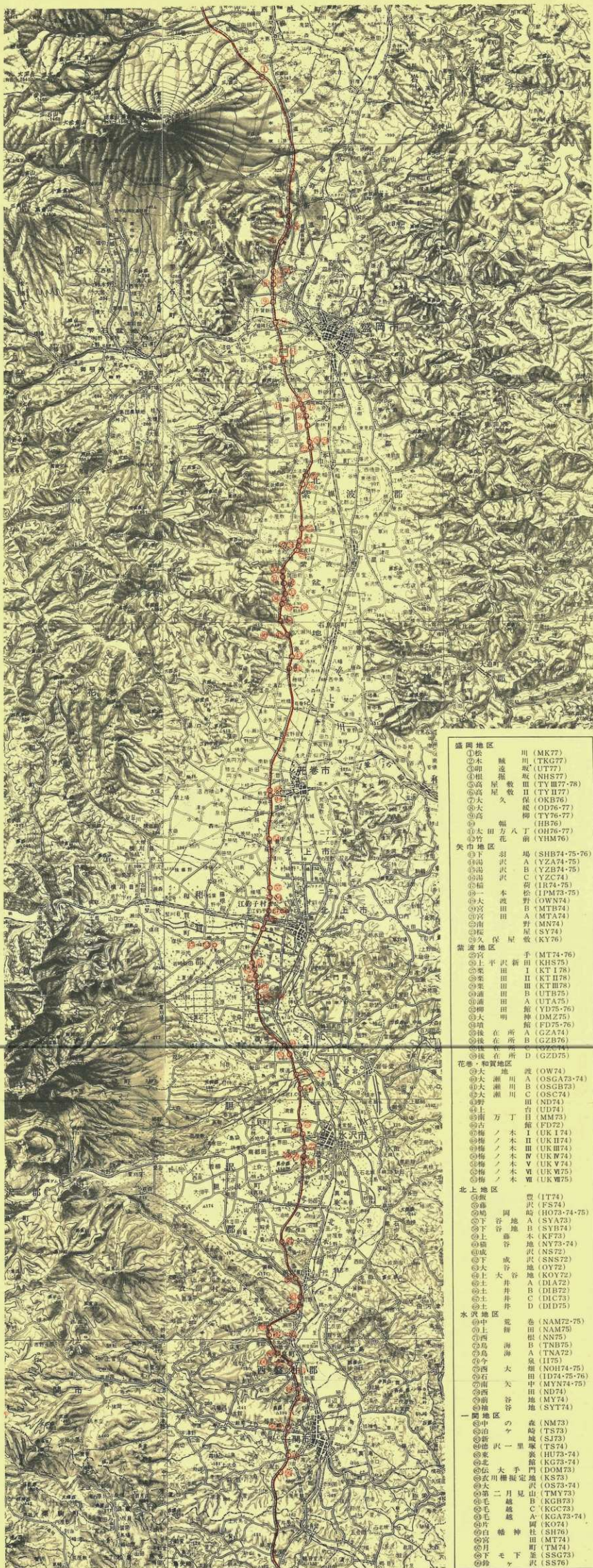
(4) すべての対象（遺構・遺物・遺跡）について、技法的分析に加え組みあわせ重視の観点をも加えてある。

(5) 以上の技術的基準・指標として『出土遺物の整理について』（昭和47年作成、のち一部修正）を作成し大略それに準拠した整理を実施した。細部は省略するが、大枠は①観察事項を正確に伝えるための作図法他の技術的部門、②文章表現上の留意点とからなる。後者については観察事項と解釈の峻別・不明事項の不明の理由の明示などがとくに求められている。

(6) 得た膨大な資料の公開は、別途計画のもとに実施されるであろう。

東北自動車道関係調査遺跡一覧

地区	市町村名	No	遺跡名	調査年度	地区	市町村名	No	遺跡名	調査年度	地区	市町村名	No	遺跡名	調査年度
盛	西根町	1	松川	52	紫		26	上平沢新田	50	沢		76	石田	49・50・51
		2	木蔵川	52			27	栗田 I	53			77	南矢中	49・50
		3	卯邊坂	52			28	栗田 II	53			78	西谷地	49
		4	根盛坂	52			29	栗田 B	53			79	西谷地	49
		5	高屋敷田	52・53			30	浦田 B	50			80	楠谷地	49
	6	高屋敷田	52	31	浦田 A	50	北	81	中ノ森	48				
	7	大久保	51	32	柳田	50・51		82	沼ヶ崎	48				
	8	大蔵	51	33	大明神	50		83	新城	48				
	9	高柳	51	34	墳	50・51		84	徳沢一里塚	49				
	10	高柳	51	35	後在所 A	49		85	東 築	48・49				
國	國盛岡市	11	太田方八丁	51・52	浪		57	下谷地 A	48	一		86	北 館	48・49
		12	竹花前	51			58	下谷地 B	49			87	伝大手門跡	48
		13	下羽場	49・50・51			59	上藤木	48			88	沢田園地	48
		14	湯沢 A	49・50			60	畑谷地	48・49			89	大 沢	48・49
		15	湯沢 B	49・50			61	成 沢	47			90	第二月見山	48
	矢	都南村	16	湯沢 C	49	花	石鳥谷町	62	下成 沢	47	91	毛越 B	48	
			17	稲 荷	49・50			63	大谷地	47	92	毛越 C	48	
			18	一本松	48・50			64	上大谷地	47	93	毛越 A	48・49	
			19	大渡野	49			65	土井 A	47	94	片 岡	49	
			20	宮田 A	49			66	土井 B	47	95	白幡神社	51	
中	矢中町	21	宮田 B	49	和	水	67	土井 C	48	一 関市		96	宮 田	49
		22	南 野	49			68	土井 D	50			97	月 町	49
		23	桜 屋	49			69	中荒巻	47・50			98	下 下 基	48
		24	久保屋敷	51			70	上 耕田	50			99	鈴ヶ 沢	51
		25	官 手	49・51			71	西 畑	50					
			6	古 飯	47	72	島海 B	50						
			47	梅ノ木 I	49	73	島海 A	47						
			48	梅ノ木 II	49	74	今 泉	50						
			49	梅ノ木 III	49	75	西 大 畑	49・50						
			50	梅ノ木 IV	49									



盛岡地区	
①松川	川 (MK77)
②本郷	川 (TKG77)
③柳川	坂 (UT77)
④根室	坂 (NHS77)
⑤高根	坂 (TYH77-78)
⑥高根	II (TYH77)
⑦大高	保 (OKB76)
⑧大高	保 (OD76-77)
⑨大高	保 (TY76-77)
⑩大高	保 (HB76)
⑪大高	丁 (OH76-77)
⑫大高	前 (YHM76)
矢野地区	
⑬下野	場 (SHB74-75-76)
⑭下野	A (YZA74-75)
⑮下野	B (YZB74-75)
⑯下野	C (YZC74)
⑰下野	朝 (IR74-75)
⑱下野	保 (PM75-76)
⑲下野	本 (OWN74)
⑳下野	B (MTB74)
㉑下野	A (MTA74)
㉒下野	野 (MN74)
㉓下野	屋 (SY74)
㉔下野	敷 (KY76)
紫雲地区	
㉕上野	手 (MT74-76)
㉖上野	新 (RHS75)
㉗上野	I (KT I78)
㉘上野	II (KT II78)
㉙上野	III (KT III78)
㉚上野	B (UT75)
㉛上野	A (UTA75)
㉜上野	保 (YD75-76)
㉝上野	神 (DMZ75)
㉞上野	保 (YD75-76)
㉟上野	A (GZA74)
㊱上野	B (GZB76)
㊲上野	所 (GZD75)
㊳上野	D (GZD75)
花巻・和賀地区	
㊴大和	沢 (OW74)
㊵大和	A (OSGA73-74)
㊶大和	B (OSGB73)
㊷大和	C (OSG74)
㊸大和	D (ND74)
㊹大和	台 (UD74)
㊺大和	万 (MM73)
㊻大和	保 (ND73)
㊼大和	I (UK I74)
㊽大和	II (UK II74)
㊾大和	III (UK III74)
㊿大和	IV (UK IV74)
㊱大和	V (UK V74)
㊲大和	VI (UK VI75)
㊳大和	VI (UK VI75)
北上地区	
㊴大和	豊 (IT74)
㊵大和	沢 (FS74)
㊶大和	保 (OH74-74-75)
㊷大和	A (SYA73)
㊸大和	B (SYB74)
㊹大和	水 (KF73)
㊺大和	地 (NY73-74)
㊻大和	沢 (NS72)
㊼大和	沢 (SNS72)
㊽大和	地 (OY72)
㊾大和	地 (KOY72)
㊿大和	A (DI A72)
㊱大和	B (DI B72)
㊲大和	C (DI C73)
㊳大和	D (DI D75)
水沢地区	
㊴大和	巻 (NAM72-75)
㊵大和	田 (NAM75)
㊶大和	根 (NN75)
㊷大和	B (TNB75)
㊸大和	A (TNA72)
㊹大和	泉 (IH75)
㊺大和	保 (NH74-75)
㊻大和	田 (ID74-75-76)
㊼大和	中 (MVN74-75)
㊽大和	中 (ND74)
㊾大和	地 (MY74)
㊿大和	地 (SYT74)
一関地区	
㊴大和	巻 (NM73)
㊵大和	崎 (TS73)
㊶大和	城 (SJT73)
㊷大和	城 (TS74)
㊸大和	美 (HU73-74)
㊹大和	保 (KG73-74)
㊺大和	門 (DM73)
㊻大和	保 (NS73-74)
㊼大和	沢 (OS73-74)
㊽大和	山 (TMY73)
㊾大和	B (KB73)
㊿大和	C (KGC73)
㊱大和	A (KGA73-74)
㊲大和	保 (KH74)
㊳大和	社 (SH76)
㊴大和	田 (MT74)
㊵大和	町 (TM74)
㊶大和	沢 (SSG73)
㊷大和	沢 (SS76)

第3図 岩手県における東北縦貫自動車関係施設分布図

1:200,000

本 文

地形区分

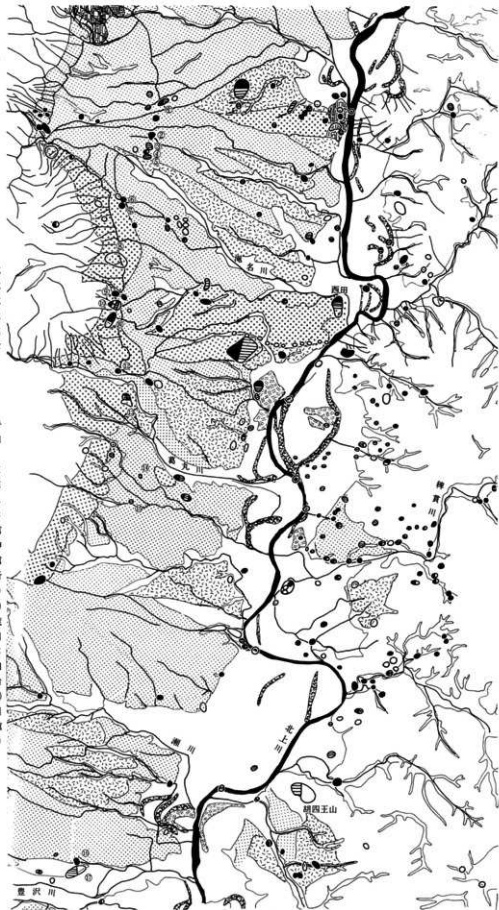


遺跡区分



縦貫道関連
の遺跡名

- ① 宮手
- ② 上平沢新田
- ③ 栗田 I
- ④ 栗田 II
- ⑤ 栗田田 A
- ⑥ 栗田田 B
- ⑦ 浦田田 A
- ⑧ 柳田田 B
- ⑨ 大項明神
- ⑩ 大項神
- ⑪ 後在所
- ⑫ A ~ D (以上紫波町)
- ⑬ 大地渡川
- ⑭ 大瀬川 A ~ C
- ⑮ 野田台
- ⑯ 上田台 (以上石鳥谷町)
- ⑰ 南方丁目
- ⑱ 古館 (以上花巻市)



第1図 地形区分と遺跡の分布

第 1 表 遺跡地名表

No	遺跡名	No	遺跡名	No	遺跡名	No	遺跡名
1	大明神(縄文時代)	41	坂の欠(平安時代)	81	関口田(中世 近代)	121	下臥内(平安時代)
2	片寄徳立縄文遺物包含地(縄文)	42	轟(平安時代)	82	* V(縄文 中世 近代)	122	藤ノ森(縄文時代)
3	境原(縄文 弥生 平安 中世 近代)	43	長壽寺 I(平安時代)	83	江曾(縄文時代)	123	花巻城跡跡(中世 近代)
4	十二神古墳群(中世 近代)	44	* 目(平安時代)	84	江曾一里塚(中世 近代)	124	谷地(平安時代)
5	御在所田(縄文時代 中世 近代)	45	上沢田 I(平安時代)	85	銭根跡跡(中世 近代)	125	熊堂古墳群(古代 奈良時代)
6	片寄上久保柱脚(平安時代)	46	藤原(平安時代)	86	北溝口(縄文時代)	126	鷹王塚(中世 近代)
7	片寄熊林縄文遺物包含地(文時代)	47	保沢川(平安時代)	87	山本(縄文時代)	127	古館(平安時代 中世 近代)
9	四ノ屋 I(縄文時代)	49	下館跡(中世 近代)	89	白山長根(縄文時代)	128	下館(平安時代 中世 近代)
10	片寄越田(縄文 平安時代)	50	久保目(平安時代)	90	太子堂(縄文時代)	130	久田野(縄文時代)
11	村境塚(中世 近代)	51	久保田(平安時代)	91	西宮野目(縄文時代)	131	榎安(縄文 平安時代)
12	嶋塚(縄文 平安時代)	52	明戸 I(平安時代)	92	十三塚(中世 近代)	132	安野(縄文時代)
13	数馬屋敷(縄文時代)	53	* 目(縄文時代)	93	山の神(縄文時代)	133	中野目(縄文時代)
14	境船場(中世 近代)	54	* 田(平安時代)	94	佐渡川古墳群(中世 近代)	134	中野 A(縄文時代)
15	西田(縄文 平安時代 中世 近代)	55	関口 V(平安時代)	95	方八丁(平安時代)	135	中野一里塚(中世 近代)
16	野上(縄文時代)	56	赤川渡し場(中世 近代)	96	上ノ山(縄文 平安時代)	136	高松(縄文時代)
17	太田 IV(縄文時代)	57	糠森(平安時代)	97	葛船場(中世 近代)	137	高松山経塚(中世 近代)
18	宝水(平安時代)	58	古野(縄文時代)	98	大西(縄文時代)		
19	石鳥谷船場(中世 近代)	59	井戸向船場(中世 近代)	99	新田(縄文時代)		
20	熊野堂(縄文 平安時代)	60	堀(平安時代)	100	反町(縄文時代)		
21	馬頭(平安時代)	61	志登計(縄文 平安時代)	101	反町(中世 近代)		
22	田屋(中世 近代)	62	戸塚(平安時代)	102	大西嶺(縄文時代)		
23	大瀬川小学校(縄文時代)	63	飯塚(縄文 平安時代)	103	前 I(縄文時代)		
24	大地塚(縄文 平安時代)	64	野沢川 I(縄文 平安時代)	104	* II(縄文時代)		
25	熊(縄文時代)	65	* 目(縄文 平安時代)	105	八重畑(中世 近代)		
26	弥五郎屋敷(縄文時代)	66	—	106			
27	熊山(縄文 弥生 平安時代 中世 近代)	67	大曲(縄文時代)	107	ジャノリ(縄文時代)		
28	長谷堂跡跡(中世 近代)	68	溝沢(平安時代)	108	高畑(縄文時代)		
29	大野寺跡跡(中世 近代)	69	大明神(縄文 平安時代)	109	安塚屋敷(縄文時代)		
30	米千利沢(平安時代)	70	貝ノ池 I(縄文 平安時代)	110	長沢目(縄文時代)		
31	南壽寺(中世 近代)	71	* 目(縄文時代)	111	* IV(縄文時代)		
32	野田(平安時代)	72	七ッ森(縄文 平安時代)	112	深市(縄文 弥生時代)		
33	上台(平安時代)	73	上野々(縄文 平安時代)	113	深市古墳群(中世 近代)		
34	八日市(縄文 平安時代)	74	塚ノ森 I(平安時代)	114	深市跡跡(中世 近代)		
35	光林寺(文 平安時代 中世 近代)	75	* 目(文 平安時代)	115	古堂(平安時代)		
36	好地田一里塚(中世 近代)	76	七日市古墳群(中世 近代)	116	平市(平安時代)		
37	上畑町 I(平安時代)	77	上十日志(平安時代)	117	八幡(縄文時代)		
38	* 目(縄文 平安時代)	78	広沼跡跡(中世 近代)	118	胡四王山跡跡		
39	白糠林古墳(中世 近代)	79	藤原(縄文 平安時代)	119	上臥内(平安時代)		
40	北向い古墳群(中世 近代)	80	関口西(中世 近代)	120	龍ノ水(平安時代)		



地区概観

1 地形概観 (第1、2図)

本地域の中央部にも南北にのびる北上川河谷平野があり、同川はこの河岸低地(沖積低地)を蛇行しながら南流する。北上川の東、西岸ではその地形は様相を大きく異にする。

北上川河谷平野の東方は北上山地の西縁部(東部山地)にあたり、山地、丘陵地が入り組んで発達している。山地は権現堂山(476m)を最高峰とし、標高300m前後、丘陵地は同じく300~150m前後である。この東部山地は古生層、花崗岩類、蛇紋岩類、安山岩、第三紀鮮新統の砂岩頁岩からなる。台地は、山地・丘陵地を開析し西流し北上川に注ぐ猿ヶ石川・稗貫川などの諸河川に沿って小規模な河岸段丘として分布する。上記の諸河川には沖積低地が発達し、河川勾配は比較的緩い。

北上川河谷平野西方は上記とは地形を大きく異にする。その西側には急峻で起伏の大きい第三系よりなる奥羽山脈(西部山地、高さ800m以上)がひかえる。さらに山地東縁の外方にも第三系に属する安山岩の露出があり、北谷地山・日詰の城山などのように、段丘発達区内に残丘状に分離して散在する。この奥羽山脈東縁部は、基本的にはグリーン・タフで構成され、安山岩〜流紋岩や砂岩、礫岩、頁岩からなる。この山地はその東縁部を、主として南北方向の直線状急崖地形で境され、北上川右岸の段丘地形発達区に臨んでいる。この急崖は構造運動による断層線崖と思われる。山地は北西部に向かい、次第に高度を上げていく。

西部山地に発した豊沢川・瀬川・葛丸川等の諸河川は、急勾配で北上川に合流している。なお北上川右岸の丘陵発達はあまり顕著でなく、わずかに西部山地東縁の断層線崖下に、扇状地性台地にはさまれて、巾0.5~2kmの南北に細長い形状で分布するにすぎない。

山地の東方の扇状地性台地には段丘群が顕著に発達するが、それらは古期から順に石鳥谷段丘・二枚橋段丘・花巻段丘・都南段丘と呼ばれている。本地域の主面は花巻段丘であり、西部山地東麓から東方へ展開し、その間より高位の段丘がとり残された形で分布する。

上記の石鳥谷段丘は西部山地東縁部山麓部や、日詰付近から石鳥谷付近にかけて、北上川河谷低地に面した扇端部・段丘端部などに残丘的に分布する。調査区域付近においては、志和稻荷神社付近から花巻温泉付近にかけて比較的顕著に発達している。これらは平坦面をやや残してはいるものの開析が進み、その傾斜は後述の花巻段丘より緩やかであり、丘陵地状化しているといわれる。

中位の二枚橋段丘は日詰以南に発達し、石鳥谷までの間では石鳥谷段丘に伴って分布するが、それ以南では、扇状地性地形の扇央~扇端において、その周囲を低位の花巻段丘に囲まれた形で分布する緩やかな起伏をもった開析扇状地面的な様相を示す。

下位の花巻段丘は、上記二段丘より急傾斜する新鮮な面をもち、等高線の配置は複合扇状地

状を呈す。既述のように、この地域（とりわけ葛丸川以南）に広範に発達している。北上川本支流沿いに分布し、とりわけ支流の奥地にまで入り込んでいる。Würm 氷期相当期の形成と考えられている。なお西部山地麓部においては、これらを被覆する小規模かつ新規の扇状地形も形成されている。

以上の他に、北上川河谷平野の両岸ともに、沖積段丘と思われるものが、北上川本支流沿いに小面積ではあるが分布する。河川との比高は一般に4.5m以下と小さい。明瞭な段丘崖は認められず、緩く傾斜し漸進的に河岸低地（沖積面）に移行するものが多い。

北上川本流に沿って巾1～4kmの谷底平野（河岸低地）が発達するが、ここには旧流路と思われる凹部、自然堤防や沖積段丘状の微高地、河川蛇行時の側刻によると思われる崖などが残存し、一様に低平ではない。北上川右岸の諸段丘群を開析する諸河川にも沖積低地が発達しているが、漸次小規模な沖積段丘化を行ないつつ形成されたらしく、段丘に向かって緩く傾斜している。

本地域における主要な水系は北上川水系であり、諸河川として葛丸川・滝名川・五内川と、これらに注ぐ谷及び沢がある。これらの発達状態は、全体的に影塚期乃至満張期にあたる。

河系模様は全般的に樹枝状を呈するが、西部では羽毛状を、また北谷地山、城内山では放射状を呈す。

注) 以上の記述は下記文献、佐藤二郎氏の教示による。

中川他、北上川中流沿岸の第四系および地形—北上川流域の第四紀地史(2)—地質学雑誌第69巻第812号1963年

ちなみに本地域の表層地質を概述すると以下のとおりである。

地質時代	地層(岩層)名	岩石の種類	
新 四 紀	沖積世	現河床堆積物	砂礫泥(シルト、粘土)
		崖錐堆積物	砕屑物
	洪積世	扇状地・段丘堆積物	火山砕屑岩(ローム)
		新期火山類	安山岩質岩石
		扇状地・段丘堆積物	砂礫泥・砕屑物
	新 第三 紀	志和層	凝灰質頁岩・凝灰質砂岩・亜炭
		中新世	湯口層
男助層			凝灰岩
幕館層		石英粗面岩質凝灰岩 石英粗面岩質角礫凝灰岩	
中 世 代	白亜期	深成岩類	安山岩質集塊岩 角礫凝灰岩
		花崗岩類 斑輝岩類 蛇紋岩類	
古 生 代	二疊期	北上山系北部型	粘板岩・頁岩
	石炭期	南部型古生層	チャート 石灰岩 輝緑凝灰岩

(註) 以上は次によった
北上山系開発地域 土地
分類基本調査 日誌
若手県 1974年

2 遺跡分布について (第1・2図)

現段階で把握している限りでの遺跡分布を基礎に、その分布上の特徴を見る。ただし、花巻市地区については遺跡の把握が必ずしも十分ではなく正確は期しがたい。同市地区については早急な確認が求められる。

縄文時代の遺跡が河岸低地(沖積地)に立地することは極めて稀である。北上川西岸においては良好に発達している諸段丘群の縁辺・面を開析する沢(小河川)の周縁などに分布する。

それらの中では紫波町西田遺跡(高位段丘の東端部)がもっとも著名である。時代内の時期による占地の移動の存否の点検は興味ある課題である。東岸においては同様に段丘の縁辺・丘陵性の山地に入り組んで発達する谷(沢)沿いの緩斜面に存在する例が多い。単純に数のみを比較すると左岸に遺跡が多く分布する。石鳥谷町高畑遺跡の如き、ある程度の規模を有する集落も存在するらしい。

弥生時代のそれについては資料不足のため確言は出来ないが、高位段丘上などの比較的高地に占地するものと、河岸低地をのぞむ低位段丘縁辺に対するそれとがあるらしい。両者の生業論的検討も必要であろう。

古墳時代・奈良時代についても資料不足であり不明な点が多い。奈良時代の可能性の高いものは熊堂古墳群であるが、それは低位段丘の縁辺にのっている。胆沢扇状地におけるあり方と類似するとも見える。

平安時代の遺跡は大略縄文時代に重複するものが多いが、それに加えて河岸低地や、その上の自然堤防へも進出し始める点が新しい傾向と思われる。これも他地域に共通するところである。胡四王山遺跡や南隣の東和町所在の成島毘沙門天像の存在をひくまでもなく、平安時代のこの地域にも種々の政治的・経済的動きがあったと思われるが、現状では一切不明である。今後の資料の蓄積にまつしかない。

中・近世についても不明な点が多いが、近世の城館については、西方山地の麓部・高位段丘東縁部などと、北上川河岸低地に臨む段丘縁片に営まれる点が目立つ。北上川東岸も同様であり、交通上の要地を占める。

以上のように本地域の遺跡立地の動きは、胆沢扇状地におけるよりも、その変化が目立たない。今後の資料増加によりその補遺を追加し、その傾向性の把握に努めねばならない。

おお ち わたり
大地渡遺跡

遺 跡 名：大地渡（略号OW74）

遺 跡 所 在 地：岩手県稗貫郡石鳥谷町大瀬川7の102

調 査 期 間：昭和49年6月5日～9月9日

調 査 対 象 面 積：6,500 m²

発 掘 調 査 面 積：2,200 m²

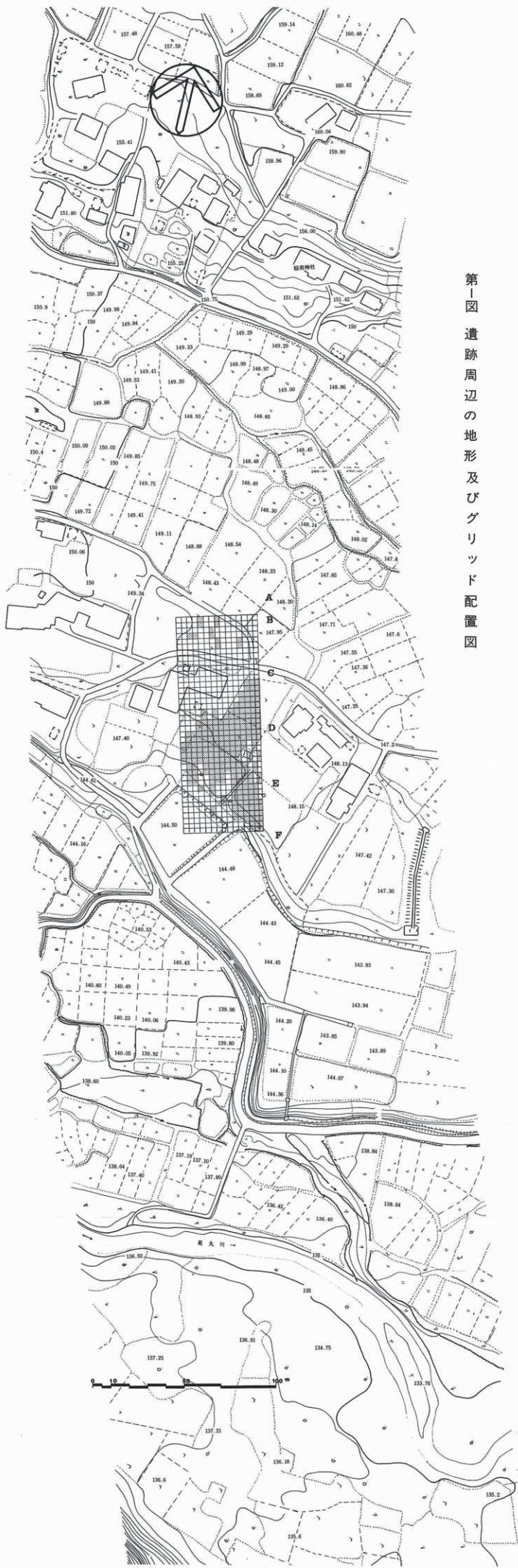
本遺跡の発掘調査結果の整理分担

・土器復元・拓影図作成・石器実測・トレース・
石器計測・図版割りつけ・原稿浄書。

木村 キエ子・亀ヶ森 恭子・小 林 史 子
小林 三千江・石田 千鶴子・前 田 隆 子
中 山 久 子・及 川 容 子

・土器・土製品実測、トレース。

相 原 康 二



第1図 遺跡周辺の地形及びグリッド配置図